



◆生協との付き合いが誇りであり、支えです



田老町漁協組合長
小林 昭榮氏

田老町漁協では震災により職員と組合員、その家族に犠牲者を出し、漁船や工場など施設をほとんど失いました。ぼうぜん自失の中、つながらなかった携帯がつながると、さっそく連絡いただいたのが生協の皆さんです。支援物資も届けていただき、本当にありがたく思いました。

初めの1カ月は海岸線のがれきや海上で絡まった養殖施設の撤去作業に明け暮れ、その後、復旧に取り組み、わかめの養殖では仮施設を設置、夏に採苗を行ないました。

この冬から本養成となりますが、621台あった養殖施設はすべて失われたため、現在、439台の建設を急ピッチで進めています。例年2,000トンのわかめが取れますが、来春にはその8割の1,600トンを収穫するのが目標です。いわて生協さんとの35年のお付き合いが、田老町漁協の組合員にとって誇りであり、支えです。生協の皆さんの真心を受け、それが今、希望という形になって前へ進む力になっています。

生協の真心が希望という推進力に

～いわて生協「田老町漁協を励ます会」開催～



いわて生協より田老町漁協に軍手などの寄贈が行なわれた。

10月22日、いわて生協は、岩手県宮古市の田老町漁協で「田老町漁協を励ます会」を開催しました。

宮古市の田老地区は、高さ10m幅2.4kmの大型堤防を越える津波が押し寄せ、田老町漁協も壊滅的な被害を受けました。

この日、田老町漁協に駆け付けたいわて生協の組合員、職員らは約50人。カイロや軍手、トラックの寄贈が行なわれ、漁協からの状況報告が続いた後、岩手郡コープ（盛岡市北西部の地区）の組合員が演じたのが寸劇です。田老町漁協の「真崎わかめ」がいかにおいしく、健康に良いかを、4人が舞台からユーモラスに訴えます。そのあと、組合員によって歌が歌われ、交流が続きました。

午後からは、滝沢村の「元村子どもさんさ愛好会」の子どもたちが、舞台狭しと太鼓を打ち鳴らし、笛の音を響かせて踊り、大きな拍手を受けました。

岩手郡コープ理事の反町久美さんは、「(田老町漁協の)景色がすっかり変わってしまって驚きました。内陸では“日常”が戻っていますが、こちらはまだまだこれからです。応援し続けなければとあらためて思いました」と語っていました。



建設中の田老町漁協製氷工場。

田老町漁協への募金開始

いわて生協では、10月15日より、田老町漁協へトラックを贈るための募金を実施しています。このトラックは、わかめを運搬するために使用されるものです。漁船購入とは異なり、購入する際補助が出ないため、今回の募金につながりました。いわて生協の店舗、共同購入で募金を行なっています。